

雪対策総合計画 R4までの各取組の進捗状況														資料 2				
No.	施策の柱立て		施策の方向性		主な取組		主な取組の説明文		事業実施期間					特記事項			備考	担当課
									H30	R1	R2	R3	R4	R3までとR4との相違点	見直しの方向性	その他		
1	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	1	効率的な除排雪の推進	1	除排雪業務委託の全体的な見直し	契約方法の検討など除排雪業務委託の全体的な見直しを行います。	実施	→	→	→	→	・ 除雪業者がやむを得ない事情により業務の第三者譲渡を行う際の除雪業者の責務について契約書(特記事項)に明記。 ・ 除雪業者が業務不履行をした場合の違約金の具体的内容について、契約書(特記事項)に明記。	・ 除雪委託料の算定方式の見直し(距離精算→時間精算)による除雪費用の適正化。 ・ 除雪補償料の制度見直し			土木課	
2	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	1	効率的な除排雪の推進	2	除雪運行管理システムの導入検討	除雪車等へのGPS端末の導入を検討します。	実施	→	→	→	→	距離精算を時間精算にしたモデル地区で、委託費の増減や市民からの問い合わせの増減等の影響を再検証を行った。	R4年度のモデル地区時間精算方式に関する再検証を踏まえ、R5年度は時間精算方式に全路線を切り替え、R6年度の時間精算による運行管理システム導入の足掛かりとする。			土木課	
3	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	1	効率的な除排雪の推進	3	除雪計画の策定	除雪事業を円滑に実施するため除雪計画を策定します。	実施	→	→	→	→	除雪指定路線について、過去の除排雪実績に基づき、区分の見直しを行った。 1種⇒2種 5路線 3種⇒1種 1路線		引続き事業を円滑に実施するため、除雪路線等の計画の見直しや除雪体制の維持対策を図る。		土木課	
4	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	1	効率的な除排雪の推進	4	関係機関との連携による除雪の推進	山形県及び高畠町と除雪業務の相互委託を行い、効率的な除雪を実施します。	実施	→	→	→	→	高畠町との交換路線で東北中央自動車道側道付近の交換路線を見直しし、交換延長の精査を行った。	R5年度に市道広幡西廻り線が開通することから、効率的な除排雪を行うため県及び川西町との協議を行う。			土木課	
5	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	2	雪処理施設の確保	1	流雪溝の整備促進	冬期間の快適な市民生活を確保するため、流雪溝の整備を推進します。	実施	→	→	→	→	概ね計画どおり整備を実施した。	今後も計画的に事業を進める必要があるが、要望件数も多いため、未着工箇所が増え続けることから、より効率的・効果的な取り組みを行っていく必要がある。			土木課	
6	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	2	雪処理施設の確保	2	米沢駅前融雪機器についての検討	米沢駅前の融雪について、従来の冷媒を使用しない融雪機器に更新することを検討します。	実施	→	→	→	→	駅前広場に堆雪場を設け、排雪費用の削減を図った。	融雪機をメンテナンス及び修繕しながら運用し、今後の駅前施設融雪の在り方を検討する。なお従来の冷媒(R-22)は、2019年12月末で生産終了しており、新たな冷媒によるヒートポンプ設備の更新が必須となることから、融雪を廃止し機械除雪への変更を検討する必要がある。			環境生活課	
7	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	2	雪処理施設の確保	3	コミセン等公共施設の無落雪化等の検討	今後整備する公共施設を雪下ろしの必要のない無落雪型にすること等を検討します。	実施	→	→	→	→			R7年度まで建設予定の塩井及び広幡コミセンについて、検討する。	田沢コミセン(R3完成)及び南原コミセン(R4完成)の屋根は、2m積雪まで耐えることが可能。	コミュニティ推進課 施設所管課	
8	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	3	雪害防止対策の充実	1	防雪柵、なだれ防止対策推進	防雪柵を整備し、地吹雪による道路等の吹きだまり防止や視程障害の緩和を図ります。	実施	→	→	→	→			H30年度で1路線事業完了したが、次の事業着手については、事業効果等を鑑みて検討が必要である。		土木課	
9	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	3	雪害防止対策の充実	2	地下水保全及び地盤沈下防止	米沢地区地下水利用対策協議会と協力し、消雪用の地下水の揚水量を必要最小限になるように啓蒙活動を行います。	実施	→	→	→	→	例年と比較して、啓発活動については最低限のものにとどまった。	米沢地区地下水利用対策協議会の活動の拡充・継続を図る。			環境生活課	
10	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	3	雪害防止対策の充実	3	油流出事故防止対策	油流出事故が発生した際には、河川への流入など、環境への影響がないかを調査すると同時に、原因者へ誤流出防止の指導を行うほか、広報での啓発を行います。	実施	→	→	→	→	山形県、消防署、警察署等の関係機関と共に調査を行った。また、ホームページ、広報等で啓発を行った。	関係機関の責務に係る認識を再共有し、調査方法の見直しを検討する。			環境生活課	
11	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	3	雪害防止対策の充実	4	空き家対策の推進	管理不全の空き家の所有者に対して、指導等を行うと共に、広報などを利用し広く一般に適正な管理を呼びかけます。	実施	→	→	→	→	(例年通りの取組みを行った。)				建築住宅課	
12	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	3	雪害防止対策の充実	5	農業被害防止対策(農免道路除雪)	果樹の枝折れ等を防止するため、樹園地の作業道につながる農免道路の除雪を行い、作業の円滑化を図ります。	実施	→	→	→	→			近年の異常気象による降雪状況に応じて、迅速に除雪が実施できるよう、生産者や関係機関と情報を共有し、より連携を進めていく必要がある。		農政課	

雪対策総合計画 R4までの各取組の進捗状況													資料 2					
No.	施策の柱立て		施策の方向性		主な取組		主な取組の説明文		事業実施期間					特記事項			備考	担当課
									H30	R1	R2	R3	R4	R3までとR4との相違点	見直しの方向性	その他		
13	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	1	雪捨て場の確保	道路の排雪や市民等から搬出される排雪を受け入れるため、雪捨て場を確保します。	実施	→	→	→	→	・自然融雪により委託料を抑制できるよう、雪消し、整地、ゴミ拾い作業を含めた4月末までの占用期間を、雪消し以外の作業については5月末まで占用期間を延長し、自然融雪期間を4末日まで確保して、雪消し作業費用の縮減を行った。		雪捨て場の限られたスペースをさらに有効利用できるよう、雑木の処理について、関係機関と調整を図り広げる必要がある。 また、新規雪捨て場に適した敷地についても、調査していく。		土木課	
14	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	2	町内との連携による雪押場の設置	地域の公園や空き地等の雪押場としての活用を検討します。	実施	→	→	→	→	・R4.7月に万世コミセンと愛宕コミセンで地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、雪押場の必要性についてPRするとともに雪押場の情報提供依頼を行った。 ・前年度の私道除雪助成事業申請者、押雪軽減申請町内会に対し、今年度の申請案内時に押雪場所の情報提供依頼を行った。	R5.7月に窪田コミセンと南原コミセンに対し、地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、押雪場所の必要性をPRするとともに、押雪場所の情報提供依頼も行う。	・前年度の私道除雪助成事業申請者、押雪軽減申請町内会に対し、押雪場所の情報提供依頼を継続して行っていく。		土木課	
15	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	3	私道除雪への助成事業	市道除雪の対象となっていない私道について、町内会等が実施する除雪費用の一部を助成します。	実施	→	→	→	→	令和4年度は、新規15路線、市道認定等による廃止が3路線の12路線(828m)増加した。				土木課	
16	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	4	除排雪協力会による排雪への助成事業	除排雪協力会が実施する排雪費用の一部を助成します。	実施	→	→	→	→	R4.7月に万世コミセンと愛宕コミセンで地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、除排雪協力会による排雪費用の助成についてPRを行った。。	R5.7月に窪田コミセンと南原コミセンで地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、除排雪協力会による排雪費用の助成についてPRを行う予定である。	協力会に加入している世帯の中でも高齢者世帯や単身世帯等が増加しているため、排雪の助成額増額の要望があることから、検討が必要である。		土木課	
17	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	5	通学路の安全確保	・通学路となっている道路の幅出しや交差点の除排雪等に係る合同安全点検を実施します。 ・降雪期の様々な気象条件に対応するための通学路の安全パトロール体制を確立します。 ・通学路への落雪などが想定される建物等所有者に対して、降雪期前に適切な管理の協力を要請します。	実施	→	→	→	→						学校教育課
18	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	6	効率的な除排雪に対応した道路環境の確保	道路の整備の際は効率的な除排雪作業が出来るよう配慮します。	実施	→	→	→	→			概ね計画的に整備工事を実施しており、今後も除排雪に配慮した道路計画を行い、実施計画に基づき、年次計画で整備工事を行っていく。		土木課	
19	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	4	安全な道路交通の確保	7	公共交通の確保	バス停の除雪や冬タイヤへの改正など、路線バス等の公共交通の安定した運行確保に努めます。	実施	→	→	→	→			R4は、R3に比べて遅延の発生が少なかった。		地域振興課	
20	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	5	安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及促進	1	安全な雪処理方法の周知	広報等により安全な雪下ろし作業や除雪作業方法を周知します。	実施	→	→	→	→					防災危機管理課	
21	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	5	安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及促進	2	出前講座による安全な雪処理方法の説明	市民の要請に応じ、出前講座で安全な雪処理方法について説明します。	実施	→	→	→	→					防災危機管理課	
22	1	雪に強く住みよいまちづくりの推進	5	安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及促進	3	除雪業者リストの作成・周知	除雪業者リストを作成・周知し、事故防止を図ります。	実施	→	→	→	→	(例年通りの取組みを行った。)				建築住宅課	
23	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	1	高齢者・障がい者の支援の充実	1	除雪援助員の派遣	冬期間においても支障なく自立した生活が営めるように、高齢者・障がい者世帯に除雪援助員を派遣します。	実施	→	→	→	→		委託業者の確保に向けて、物価高騰や人件費引上げ等に伴う委託契約単価の見直しを実施し、合わせて利用者の費用負担額を引き上げる。			社会福祉課 高齢福祉課	
24	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	1	高齢者・障がい者の支援の充実	2	雪下ろし費用の助成	自力で雪下ろしができない一人暮らしの高齢者・障がい者世帯に、雪下ろし費用の一部を助成します。	実施	→	→	→	→		雪下ろしに要する経費増(人件費、燃料費等)に伴い、雪下ろし1回当たりの助成上限額を10,000円に引き上げる。			社会福祉課 高齢福祉課	
25	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	1	高齢者・障がい者の支援の充実	3	押雪軽減支援制度	市と事業者との協働により、道路除雪に伴う高齢者・障がい者世帯の住宅前への押雪軽減を図ります。	実施	→	→	→	→	・押雪軽減について、令和4年度の届出者は1,135件と昨年度より72件増加した。 ・障がい者間口排雪支援について、R3年度は対象者22人中1人の利用があったが、令和4年度は、少雪だったことから対象者28人中利用者はいなかった。	・押雪軽減支援制度について、除雪援助員派遣事業の利用対象者のほかに雪下ろし助成事業の利用対象者の中で軽減希望者についても追加を検討する。	・押雪軽減について、「全く雪を置いていかない」との誤解から、押雪に関する苦情が多く寄せられることから、苦情を減らせるよう、申請時に雪押場の位置を明記してもらうことや、申請書と一緒に除排雪協力会の届出用紙を同封することで、協力会の設置を推進する。		土木課	
26	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	1	高齢者・障がい者の支援の充実	4	民生委員・児童委員との連携	支援を必要とする高齢者・障がい者世帯が必要なサービスを受けられるよう、冬期間の見守りを担っている民生委員・児童委員と連携を図ります。	実施	→	→	→	→			「高齢者等除雪援助員派遣事業」及び「高齢者等雪下ろし助成事業」について、毎年10月に事業内容の周知を行う。		社会福祉課 高齢福祉課	

雪対策総合計画 R4までの各取組の進捗状況														資料 2				
No.	施策の柱立て		施策の方向性		主な取組		主な取組の説明文		事業実施期間					特記事項			備考	担当課
									H30	R1	R2	R3	R4	R3までとR4との相違点	見直しの方向性	その他		
27	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	1	高齢者・障がい者の支援の充実	5	ふるさと応援寄附金制度の活用	ふるさと応援寄附金の返礼品に雪処理作業に関するサービスを新たに追加し、市外で暮らす家族等からの支援を受けやすい体制整備を図ります。	実施	→	→	→	→			平成30年度から、ふるさと納税返礼品としておりましたが、令和2年に1件の申込みのみとなっており、また、この1件につきましても、除雪を行わないこととなりました。（降雪量の影響による）。 除雪サービスについては、降雪量と大きく関係があり、スピード感をもった対応を必要とするため、返礼品としては需要がなく、事業者からも、令和5年度からの事業は行わないとの意向も受けたため、令和4年度をもって実施終了とする。		米沢ブランド戦略課	
28	2	高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり	2	健康づくりの推進	1	介護予防事業	高齢者の運動機能向上や閉じこもりの予防等を図り、健康的に過ごしていただくため、冬期間も含めた年間を通しての介護予防教室を促進します。	実施	→	→	→	→		新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられるため、これまで以上に新たな事業者の参入を目指し、周知を図る。			高齢福祉課	
29	3	市民協働による雪処理の体制づくり	1	地域除排雪体制の充実	1	除排雪協会の組織化推進	地域との協力により除排雪協会の組織化を推進します。	実施	→	→	→	→	R4年度は、除雪説明会、広報などによるPRや新規除雪路線の追加により8団体の新規登録があり、507団体の登録実績となっている。	R5.7月に窪田コミセンと南原コミセンで地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、除排雪協会の組織化についてPRを行う予定。	地区によっては除排雪協会が組織されていない所があり、苦情も増えていることから、地区コミセン等と連携し、組織化を促していく。また、押雪軽減申請書と除排雪協会届出書を同封し、協会の設置を推進する。		土木課	
30	3	市民協働による雪処理の体制づくり	1	地域除排雪体制の充実	2	除雪モニター制度	各コミュニティセンターに対し、降雪状況の情報提供の協力を依頼し、地域の実情に応じた除雪を実施します。	実施	→	→	→	→	令和4年度の除雪モニター受付件数は、76件の情報が寄せられた。				土木課	
31	3	市民協働による雪処理の体制づくり	1	地域除排雪体制の充実	3	雪に関する情報提供	各地区での説明会や広報等により雪に関する様々な情報を発信し、冬の暮らしに必要なルールやマナー等の啓発を進めていきます。	実施	→	→	→	→	11月中旬頃より内17地区のうち15地区で除雪説明会を行い、市が作成した除雪計画書の説明を行った。また、R4.12.1号の広報に「雪国米沢へ住む人へ 除雪ガイド」として記事を掲載し、除排雪に対する補助制度や除雪作業を行う際の注意事項等を掲載した。		議員から提案もあり、R4年度から毎年2地区を対象に、地区住民に対する振り返りの意見交換会を開催し、除雪作業の問題点を話し合っている。意見交換会を実施した地区について、今冬の除雪状況を注視しながら、意見交換会の効果を検証していく。		防災危機管理課 土木課	
32	3	市民協働による雪処理の体制づくり	1	地域除排雪体制の充実	4	地域共助による除排雪体制の整備検討	住民同士の助け合いにより除排雪を行う体制のあり方を示します。		実施	→	→	→	R1からR3までのモデル事業を踏まえ、R4から本格運用に移行した。		使いやすい事業となるよう引き続き制度の見直しを図っていく。		地域振興課	
33	3	市民協働による雪処理の体制づくり	2	雪処理の担い手の確保	1	除雪ボランティア制度	米沢市社会福祉協議会が実施する除雪ボランティア事業について、現行制度の充実や新たな支援制度を検討します。	実施	→	→	→	→					社会福祉課	
34	3	市民協働による雪処理の体制づくり	2	雪処理の担い手の確保	2	オペレーター勉強会	オペレーターの技能向上や意識向上を図るため、勉強会を開催します。	実施	→	→	→	→	前年度に引き続き、コロナウィルスの感染状況を考慮し、勉強会の開催を見送った。	オペレーター同士が日頃の技術を共用できるよう、閉鎖後の雪捨て場などで、除雪車による実践に近い勉強会を実施する。			土木課	
35	3	市民協働による雪処理の体制づくり	2	雪処理の担い手の確保	3	除雪従事功労者表彰制度	長年にわたり本市の除雪作業に従事された方を功労者として表彰します。	実施	→	→	→	→	令和4年度の表彰対象者は6名で、除対協総会前に表彰式を行った。		現在除雪に従事しているオペレーターの年代別・勤続年数等を踏まえ、どれくらい年数を除雪に従事すれば「一人前」として認められるか、除雪業者と話し合いながら、引き続き検討していく。		土木課	
36	4	豪雪時・豪雪災害時における対策の充実	1	豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実	1	豪雪対策本部の設置	豪雪時に迅速な応急対策が展開できるよう、必要に応じ豪雪対策本部を設置し、国・県及び関係機関と情報を共有しながら全庁的に雪害に対応します。	実施	→	→	→	→			R4年度は災害対策本部の設置は無し。	今後も本部設置の必要性について迅速に判断していく。	防災危機管理課	
37	4	豪雪時・豪雪災害時における対策の充実	1	豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実	2	雪害処理マニュアルの作成	雪害発生時に迅速な処理を行うため、雪害処理マニュアルの充実・更新を行っていきます。	実施	→	→	→	→			今後も定期的に見直しを図っていく。	マニュアルの修正期間は十分に設ける。	防災危機管理課	

雪対策総合計画 R4までの各取組の進捗状況														資料 2				
No.	施策の柱立て		施策の方向性		主な取組		主な取組の説明文		事業実施期間					特記事項			備考	担当課
									H30	R1	R2	R3	R4	R3までとR4との相違点	見直しの方向性	その他		
38	4	豪雪時・豪雪災害時における対策の充実	1	豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実	3	小・中学校における積雪時避難経路の確保と避難訓練	小・中学校における積雪時の避難経路の確保及び避難訓練（火災・地震等）を計画的に実施します。	実施	→	→	→	→					学校教育課	
39	5	親雪・利雪・学雪の推進	1	雪を利用した観光振興	1	冬季イベントの開催	上杉雪灯籠まつり等の雪を活用したまつりを継続するとともに、雪国の魅力を伝えるイベント等の開催により、冬期間の観光誘客を推進します。	実施	→	中止	中止	実施	R2とR3の上杉雪灯籠まつりは新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となったが、R4は3年ぶりに通常の規模で開催された。	観光誘客増加に向けての取り組みをこれまで以上に強化する。			観光課	
40	5	親雪・利雪・学雪の推進	1	雪を利用した観光振興	2	国内外への情報発信	冬の魅力を積極的にアピールし、訪日外国人旅行者の増加を図るため、SNS等での情報発信や多言語によるチラシや案内板等を作製します。	実施	→	→	→	→	新型コロナウイルス感染症の影響により直接の誘客は難しいものの、台湾で展示会を開催し、米沢の冬の魅力を伝えた。	状況を注視しながら、継続して実施していく。			観光課	
41	5	親雪・利雪・学雪の推進	1	雪を利用した観光振興	3	冬のスポーツツーリズム推進	市内のスキー場や関係団体と連携し、ウインタースポーツの活性化を通じた冬季の観光振興を図ります。	実施	→	→	→	→	米沢エリアスキー場協議会と連携して、誘客キャンペーンを実施した。	状況を注視しながら、継続して実施していく。			観光課	
42	5	親雪・利雪・学雪の推進	1	雪を利用した観光振興	4	雪の魅力を活用した教育旅行の推進	スキーや雪遊び等のコースを入れた教育旅行を推進します。	実施	→	→	→	→	R3同様、R4も新型コロナウイルス感染症の影響で教育旅行の受入がなかった。	新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、受入体制を整備する。 新型コロナウイルス感染防止対策を行い、受入れ体制を整備するとともに、誘致活動を行っていく。			農政課 観光課	
43	5	親雪・利雪・学雪の推進	2	雪氷熱エネルギー等の調査研究	1	地下水の揚水によらない融雪システムの開発・普及	米沢地区地下水利用対策協議会と協力し、地下水の揚水によらない融雪システムの開発・普及を検討します。	設備撤去	実験終了						地下水の揚水によらない融雪システムについて、実験の範囲の中では十分な効果が出ているが、コスト面の課題があり、研究成果の実用化は困難である。実験は終了とした。		環境生活課	
44	5	親雪・利雪・学雪の推進	2	雪氷熱エネルギー等の調査研究	2	雪氷熱エネルギーに関する調査研究の推進	雪室、雪冷房等、雪のもつ冷熱エネルギーの利用促進に向けた調査研究を推進します。								H29年度で地（知）の拠点整備事業（GOC事業）が終了して以降は動きのない状態となっている。		地域振興課 農政課	
45	5	親雪・利雪・学雪の推進	3	雪に親しむ教育活動の推進	1	副読本「わたしたちの米沢」による学習	小学校3・4年社会科において、社会科副読本「わたしたちの米沢」を使用した、雪からくらしを守る取組や雪を楽しむ行事についての学習を行います。	実施	→	→	→	→					学校教育課	
46	5	親雪・利雪・学雪の推進	3	雪に親しむ教育活動の推進	2	小・中学生の雪まつりへの積極的な参加	上杉雪灯籠まつりへの参加や、地域の雪まつりへの積極的な参加を呼びかけます。	実施	未実施	実施	→	→					学校教育課	
47	5	親雪・利雪・学雪の推進	4	雪に親しむ地域活動の推進	1	雪に親しむことをテーマとした交流活動支援	雪に親しみ、地域住民の親睦を深めるための冬のイベント等が継続されるよう、事業に対する支援を行います。	実施	→	中止	実施	→	R3までは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事が中止や縮小されていた。				コミュニティ推進課	
48	5	親雪・利雪・学雪の推進	4	雪に親しむ地域活動の推進	2	やまがた雪文化マイスター制度の活用	やまがた雪文化マイスターを講師に迎え、自主事業を行います。	実施	→	→	→	→			新型コロナ感染対策のため事業実施できなかった		コミュニティ推進課	
49	5	親雪・利雪・学雪の推進	5	雪国文化の継承・発信	1	雪国ならではの食文化の発信	雪の中で育つ全国でも珍しい「雪菜」の栽培等、本市の魅力のPRに努めながら雪国の食文化の継承を推進します。	実施	→	→	→	→	一般向けに雪菜料理コンテストを開催し、冬の野菜「雪菜」の魅力を発信した。	生産者が減少傾向にあるため、生産組織と連携を図り、食文化継承の取組を進めていく。			農政課	